

# 啄木のふるさと『もりおかの短歌』

## 第5回 年間最優秀賞 決定!

『啄木のふるさと』『もりおかの短歌』は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて『短歌のまち もりおか』を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。4つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分けて募集し、一年間に応募のあった五三三首の中から第五回目となる年間最優秀賞が決定いたしました。

### ★年間最優秀賞（1首）

やはらかな雅楽の調べ  
聞く如く盛岡弁を

耳に留めぬ

埼玉県北葛飾郡 小野寺 史子

#### 【受賞者からのコメント】

「この度は拙歌に思いがけず大きな賞を頂き、感激未だ覚めやらぬといったところです。天にも上る気持ちとはこのようなことを言うのでしょうか。趣味として細々と続けて来た短歌ですが、これを励みとしさらに精進して参りたいと存じます。」

#### 【審査員講評】

●「雅楽の調べ聞く如く」の比喩がすぐれている。  
●盛岡弁のやわらかさを雅楽の調べと比喩したところに大きな特徴があり、更に「耳に留めぬ」と自分の行為をいったところがよい。  
●盛岡弁のイメージを深く考えたことがなかったけれど、「雅楽の調べ聞く如く」とは何と新鮮なんだろう。到底思いの及ばない取り合わせの妙に感心するばかりである。

### ★年間優秀賞（2首）

緻密なる南部鉄瓶もんよの

指の動きの

点の確かさ

茨城県高萩市 大高 正男

#### 【受賞者からのコメント】

「此の度は優秀賞を戴き誠に有難うございます。昨年の秋、息子と盛岡を訪れた際に伝統ある南部鉄瓶の製造過程を見学して感動し詠んでみようと思いつきました。思いがけず賞を戴く事となり驚いております。今度は桜の季節の岩手山を見たいと思っております。」

#### 【審査員講評】

●「点の確かさ」と表現した作者は「目の確かさ」をお持ちである。  
●南部鉄瓶の整然とした「あられ」の紋様を繊細な指の動きで丹念に打ってゆく、その点がしっかりと揃っていると賛嘆している歌。  
●作者は南部鉄瓶の工房を見学されたのだろうか。下の句「指の動きの」は直に見た人ならではの臨場感がある。「緻密なる」から拙宅でも愛用している算玉型紋の鉄瓶がひらめいた。一首の表現も中々緻密である。

啄木の

短歌に惹かれし少女の日

八十路近きも若き日を恋ふ

群馬県富岡市 横田 久子

#### 【受賞者からのコメント】

「毎年五月の連休には息子が弘前の桜と津軽三味線を聞きに連れて行ってくれますが、今年は盛岡で『啄木の短歌』と出会い、遊び心で一首投稿して帰りました。もう忘れていた矢先でした。いただいた記念品はわたしの宝物です。」

「拙きが短歌詠む幸せ感じつ、盛岡の旅 思ひ出しをり」  
「いただきし古代理染額に入れ 藍の模様は 元氣もらひぬ」

日溜りの如き貴方に付いて来て

盛岡の冬

五十回越す

盛岡市 鈴木 操

#### 【受賞者からのコメント】

「誠実で且つ、私の欠点や失敗をも包み込んでくれる優しい背を見詰めながら、長年歩んで参りました。感謝の思いを素直に表現しただけですのに、思い掛けず「賞」を頂くことが出来、ただただ驚いております。もし今後、心に雨が降る日、風が吹く日があっても、この温かい背を信じ一生付いて行きたいと思いを新たにしております。」

#### 【審査員講評】

●あたたかい思いがゆつたりとながれている。  
●日溜りのようにほっとあたたかい夫に従って来て、盛岡の冬を五十回越したという。言外に金婚式を迎えた感慨がしみじみと籠ってよい歌。  
●単純に考えると五十年前の冬に、ご主人のもとに嫁いでこられた作者。「日溜りの如き貴方」と言い切ることの出来る幸せ感が羨ましい。ご夫婦仲の良さが凝縮されている上の句の表現である。

寝転びて流れる雲に

想ひ寄せ詩人の如く

言の葉紡ぐ

盛岡市 河野 康夫

#### 【受賞者からのコメント】

「不來方の城跡に寝転び、啄木が歌を詠んでいる、その様子を私も歌にしてみました。陸前高田市に生まれ育ち、盛岡市に住むようになって、三十六年になります。第二のふる里とも言える盛岡市において、啄木に触れ、賞を頂き、そして今、盛岡市民であることを実感しております。七五調の短詩文法を通じ、素晴らしい日本語をこれからも学んでいきたいと思っております。」

### ★奨励賞（2首）

啄木の  
短歌に惹かれし少女の日  
八十路近きも若き日を恋ふ  
群馬県富岡市 横田 久子

寝転びて流れる雲に  
想ひ寄せ詩人の如く  
言の葉紡ぐ  
盛岡市 河野 康夫